



第62回横幹技術フォーラム開催報告

藤井 享*

Report on the 62nd “Transdisciplinship Federation of Science and Technology” Forum

Toru FUJII*

1. 開催概要

題目：DXの幕開けから10年！わが国のDXの現状と今後10年先に向けた課題とは

= 製造・流通・DXマネジメントの3つの視点から =

日時：2025年6月12日(木)15時00分～18時00分

場所：明治大学駿河台キャンパス グローバルフロント
1階・グローバルホール（ハイブリット開催）

内容：

[開会挨拶] 伊藤 敦

（横幹連合産学連携委員長 京都府立大学教授）

[講演1] 「マーケット視点からの製造DX（エンジニアリングチェーン・サプライチェーン）の現状と課題」

藤井 享（豊橋技術科学大学総合教育院教授）

[講演2] 「小売ビジネスモデルとデータ活用」

中村 博（中央大学大学院戦略経営研究科教授）

[講演3] 「DX推進のマネジメントと体制のあり方—両利き経営を高めるDXマネジメントアーキテクチャー」

歌代 豊（明治大学経営学部教授）

[パネルディスカッション]（質疑応答含）

パネラー：講演者全員

モデレーター：藤井 享（豊橋技術科学大学教授）

[閉会挨拶] 椿 広計（横幹連合会長／情報・システム研究機構・筑波大学名誉教授）

参加者：39人

*豊橋技術科学大学総合教育院

*Toyohashi University of Technology

Received: 20 August 2025

2. 開催内容

2025年6月12日、第62回横幹技術フォーラムを明治大学駿河台キャンパスで開催しました。本フォーラムでは、製造・流通・マネジメントの3つの視点から、これまでの10年を振り返り、マーケティング5.0「（人間のためのテクノロジー）」の時代への課題点を探ることを目的として開催しました。

第1講演では、藤井享（豊橋技術科学大学 教授）より「マーケット視点からの製造DXの現状と課題」と題して講演を行いました。日本の製造業における生産プロセス改革、サプライチェーンのリアルタイム化、顧客対応強化などのDX事例を概観し、マーケティング5.0時代を見据えた戦略策定と製品開発の方向性について具体的な示唆と提示を行いました。

第2講演では、中村博先生（中央大学大学院 戦略経営研究科 教授）より「小売ビジネスモデルとデータ活用」と題して講演しました。楽天ポイント、ドコモポイントなどに代表されるポイント経済圏の普及により顧客購買履歴データの収集と分析が容易となった現状を踏まえつつ、小売ビジネスのSカーブ（成長のプロセスや累積データを時間軸で表したときに現れるS字型の曲線で、市場に新しい製品が登場してからの成長過程、企業の技術革新の進捗、プロジェクトの進捗状況など、さまざまな分野で利用され、初期は成長が緩やかで、その後急激に成長し、最終的に成長が鈍化して安定期を迎えるパターンを示す）、隠れSカーブの課題があることを指摘し、機能的価値からブランド戦略へのシフトと今後の課題について論じました。

第3講演では、歌代豊先生（明治大学 経営学部 教授）より「DX推進のマネジメントと体制のあり方—両利き経営を高めるDXマネジメントアーキテクチャー」と題して講演が行われました。CDO設置やDX推進室の運用など、企業規模・業種に応じた最適な推進体制の現状について俯瞰し、サーベイや事例に基づいて抽出した課

題を整理したうえで、両利き経営（既存事業の強化と、新規事業の立ち上げを両立させる経営）を実現する組織アーキテクチャの重要性を提案しました。

以上の講演を踏まえて、パネルディスカッションを実施しました。わが国におけるDX推進に向けた課題について、製造・流通・マネジメントの各視点から活発な議論が行われ、参加者からは導入事例やデータ活用の工夫

などの方法論に関する具体的質問が寄せられました。

最後に、総評・閉会挨拶として椿広計先生（横幹連合会長／情報・システム研究機構・筑波大学名誉教授）より本フォーラムで得られた知見を産学横断で連携し実践に結びつける重要性を強調し、次回開催への期待と参加者への謝辞を述べて閉会しました。